

やまびこ人権文化センターだより

2025

発行 やまびこ人権文化センター 倉吉市中河原 772-6 TEL/FAX 0858-28-4265

やきびこ合同かロン (国康教室 &ケリスマスケーキ作り)

鳥取ヤクルト販売の椿ひろみさんに「**健康寿命を延ばそう」**をテーマにご指導をいただきます。その後、ケーキを作ってクリスマス気分を味わいましょう。

□ | 12月 | 1 日(木) | 10:00~|2:00

所 やまびこ人権文化センター(1階 和室)

料 500 円程度(ケーキ材料代実費)

【申込期限】 12月5日(金)※要事前申込

やまびこ人権文化センター 電話:28-4265

12月 「やまびこデイ」のお知らせ

西鴨 4日(木)、天神野 18日(木)、中河原二 25日(木) いずれも 10 時から各公民館・集会所で開催します。

子支小物を作りました

10月23日(木)、やまびこ合同サロンを 開催し、来年の午(うま)年、干支の「馬」を 小さなぬいぐるみにして、可愛らしい置物を 作りました。参加者は和気あいあいと楽しく 新年を迎える準備に取り組んで、お正月の リビングや玄関にピッタリの飾りが出来上 がりました。





地区学習会「ボテ茶体験」を行いました

10月23日(木)、小鴨小学校地区学習会の6名が地元に伝わる「ボテ茶」を知り、体験する学習を行いました。ビデオ(紙芝居)を見たあと、地元の講師に昔のボテ茶の様子をお話しいただきました。児童はすぐにコツをつかみ、上手にお茶の泡を立て、おかずと一緒に美味しくいただきました。



小鴨地区文化祭「やまびこ映画館」へどうぞ!

「橋のない川」(1992年公開作品 上映時間 139分)

日 11月15日(土) 13:20~、11月16日(日) 9:30~

所 やまびこ人権文化センター(1階 図書室)

映

明治時代から大正時代の人間の尊厳を掲げて敢然と差別に抗して立ち上がっていく人々の姿を描いた、住井すゑの大ベストセラー小説『橋のない川』。 映画は、東陽一監督がこの原作をもとに、真の人間の豊かさとは何かを問いながら、全国水平社結成に至るまでの人々の闘いを描いた作品です。



困りごとや人権侵害ひとりで悩まないで 人権文化センターは身近な相談窓口です

人権文化センターはこどもから高齢者までのさまざまな人権問題や生活の困りごとについての相談に応じています。市の窓口や関係機関の紹介など対応していますので、気軽にご相談ください。 差別落書き・差別発言などに遭遇されましたら、**倉吉市人権政策課(☎22-8130**)または、 **やまびこ人権文化センター(☎28-4265**)にご連絡ください。

多様性が尊重される社会に向けて

本市では、「お互いを認め合い、安心して暮らせる人権尊重のまち」を目指し、性別、年齢、 障がいの有無、国籍などに関わりなく、一人ひとりの個性が大切にされる社会に向けた取り 組みを推進しています。今回は、性別に関する考え方や価値観が多様化しているなか、「多様 性」について考えてみたいと思います。



全中学校でジェンダーレス制服を導入

市内中学校では、生徒の多様性に対応するため、令和8年度からジェンダーレス制服(ブレザー等) を導入します。これは、違いを認めることができる学校環境をつくり、多様な中学生の自分らしさを応 援する取り組みです。

令和6年度 第43回全国中学生人権作文コンテスト鳥取県大会 入選作品から

奨励賞 「もっと自由に」 倉吉市立東中学校 1年 山崎希乃香

「女の子なのに、そういう服着るんだ」

5年生ぐらいのころ、こう言われるようになりました。その言葉があまり好きではありませんでした。男の人に なりたいわけではないし、気にしたこともなかったのですが、心のなかにモヤモヤが残る感じでした。

私は「女の子らしく」「男の子らしく」という言葉がとても苦手です。そんな事言われても、自分の思うように 生きたいのに、と感じます。

私は最近「推し活」にハマっていて、お母さんに「高校生になったら、推しのライブを見に行ってみたい!」 と言いました。でもお母さんには、「女の子だから危ないよ、近いところならいいかもしれないけど。」と言われ てしまいました。お母さんが心配する気持ちもわかりますが、女の子だからという理由で、自分のやりたいこと ができないのは悲しかったです。自分が女の子に生まれたことが少し嫌になりました。

6年生の頃、下級生をまとめる班長になりました。私は、小さい子の面倒を見るのが好きで、よく自分から話 しかけに行っていました。それを続けていると、少しずつ、仲良くしてくれる子が増えました。ある時、下級生 の子にこんなことを言われました。

「班長ってなんか女っぽくないよね!」

軽い感じで言われたその一言に、心が締め付けられました。年下の子が言う言葉だからこそ、辛かったです。女 の子らしく、男の子らしくするのが当たり前な事が理解できませんでした。

周りの友達からも「○○○ちゃんって男の子みたい」だとか言われました。「別にそうでもいいじゃん、本人が 気にしている可能性もあるのに」と言いたくなりました。どうしてそんなことをいちいち本人に言うのか、もっ と相手を気遣うべきではないかと思いました。

「女性らしく」「男性らしく」ではなく、「自分らしく」生きることができたら、きっと、生きやすい人は大勢い ます。「○○だからこうするべき」という固定概念を私は無くすべきなのではないかと思います。

これから生きていく中で、性別に対し悩みを抱える人と出会うことがあると思います。そんな時、個性を尊重 し、手を差し伸べることができる人に、私はなりたいです。

(鳥取地方法務局・鳥取県人権擁護委員会連合会発行 令和6年度 第43回 全国中学生人権作文コンテスト 鳥取県大会作品集より)

* 私たちにできること *

皆さんはこの中学生の人権作文を読んでどう感じられましたか。

私たちは、多様な面を持ち、いくつもの違う立場を持ち、多くの人や社会と関わ りながら暮らしています。

誰もが「自分のまま」で安心して過ごせる社会を実現するためには、これまでの 固定的な男女の枠組みから脱却することが求められています。

